



AEDの使い方など学ぶ

聴覚障害者ら30人参加 豊橋で講習会

手話サークル「南の風」が中心になり、聴覚障害者にAED（自動体外式除細動器）の使い方や、救急蘇生（そせい）法を

習得してもらおうという講習会が26日、豊橋市大清水地域福祉センターで地元消防団員（左から2人目）の助言を参考にAEDの使い方を学ぶ参加者

開かれた。講習会には約30人が参加。初めに豊橋ハートセンターの医師が、意識がない状態で倒れて

いる人にはどう対応すればいいか、心肺マッサージや人工呼吸といった救急蘇生法、AEDの使い方などの説明をした。南の風メンバーが手話通訳で、参加者に伝えた。

手順を案内している。しかし、聴覚障害者の場合、音声案内が聞けないため、操作法がわからないと使うことができない。

実技講習では、地元消防団や救急ボランティアの助言を受け、AED使用法を勉強した。タミー人形とAEDを使い、それぞれ参加者が発見者、人を呼ぶ係、AEDを使う係などを交代で務めた。